

静岡県日中友好協議会ニュース

No. **110**

2018. 3



“仏教四大道場”

南海観音が見守る『普陀山』

中国の仏教には四大道場があり、通常は仏教四大名山と呼ばれています。浙江省舟山市の舟山群島の中の一つの小さな島『普陀山』は山西省の五台山、四川省の峨眉山、安徽省の九華山と並び、四大名山の一つとされています。この普陀山を含む大海に囲まれた風光明媚な風景区には普済寺を始めとする多くの寺院や文化財があり、仏教文化の雰囲気にあふれ、古くから「海天仏国」、「南海聖境」との異名もあります。

時は916年、日本の高僧慧鑒（えがく）が、五台山から観音菩薩像を日本へ持ち帰ろうとしたところ、普陀山を通りかかった時に嵐によりこの船が座礁したことから、慧鑒はここに寺院を建立し、「不肯去観音院」（行きたがらない観音院）が安置されています。この寺のある岬には、普陀山最大の観音像「普陀山南海観音」もあり、土台も含めて高さ33mの観音像は、普陀山の象徴ともなっています。

「草の根交流」で市民レベルでの輪を重ねる

昨年は静岡県と浙江省が友好提携35周年を迎え、いろいろな分野で記念事業が行われましたが、その間に県・省間の友好交流を支える都市間交流も活発に行われています。浙江省の湖州市と姉妹都市提携を結んだ島田市は、友好交流を積み重ね、昨年30周年を迎え、県内では、更に富士市と嘉興市、富士宮市と紹興市、三島市と麗水市、小山町と海寧市、浜松市と杭州市がそれぞれ姉妹都市関係を結び、長年来にわたって、様々な交流活動を行い、市民レベルでの交流の輪を広げています。

島田市と湖州市 (1987年友好都市提携調印 30周年)



島田市は5年毎に記念式典、訪問団派遣等を行っている他、島田第二小学校と湖州市愛山小学校、島田第二中学校と湖州市第四中学校それぞれの姉妹校による学校交流、島田市少年少女音楽団と湖州市少年少女音楽団による音楽交流、湖州市第4中学校のホームステイ等の民間交流を行っています。

昨年は県・省友好提携35周年にあたり、ちょうど島田市と湖州市の友好提携30周年が重なる、記念すべき1年でした。昨年の8月11日には中国の青少年プレイヤーを迎えて行われた友好卓球大会は、県・省の35周年と両市の30周年を記念するものでした。

また、同年の11月には静岡県の訪中団と共に訪中し、その間に湖州市を訪問した際、島田市・湖州市友好都市提携30周年記念式典が行われ、その際に、染谷絹代島田市長と楊六順湖州市副市長が記念品交換を行った他、懇親会等の記念活動も行われました。今後は、企業視察や中小企業間の

交流等、商工関連の経済交流に力を入れ、実のある交流が期待されています。

富士市と嘉興市 (1989年友好都市提携調印 28周年)

両都市間では、市民訪問団を嘉興市に派遣する「富士市民友好の翼」活動や、高校間の学校交流（県立富士高校と嘉興一中）及びホームステイ活動等が行われてきました。

昨年の12月には、富士市体育協会が嘉興市を訪問し、嘉興市武術協会との武術交流で、柔道や剣道の模範演技の披露や中国武術の模範演技の鑑賞を行いました。

2019年には、30周年を迎えるため、何か特定の分野で文化・スポーツ交流等を企画したいと考えています。



県立富士高校と嘉興一中との交流活動



紹興市内の企業・越宮機械を視察

相互派遣及びホームステイ等を行いました。両市は、現在も企業による技能実習生の受入れ等、産業面でも熱心な人材交流を行っています。

富士宮市と紹興市（1997年友好交流関係都市提携 20周年）

1991年から始まった富士宮市内の企業による紹興市での技術指導を契機に、これら企業が研修生を受入れたり、合併企業を設立した他、両市の経済界による相互視察を経て、友好交流関係都市提携の調印が行われました。

その後、富士宮市空手連盟と紹興市武術協会によるスポーツ交流や、中学生の

三島市と麗水市（1997年友好都市提携 20周年）

両都市間で代表団を相互に派遣し、両都市間でホームステイを行う他、2014年と2016年に三島市から麗水市へ教師派遣を行いました。

昨年は友好提携20周年に当たり、公式訪問時に両市から小中学校の教師を相互派遣する協定を正式に結び、今年からスタートする予定です。今後は、観光面での協力にも力を入れ、観光協力協定を締結できるよう、努力していきたいと考えています。



浜松市と杭州市（2012年友好都市協定 5周年）



浜松市と杭州市の交流は、両市の代表的な観光資源である浜名湖と西湖を基礎としています。

昨年の県・省の35周年では、両市も5周年に当たり、4月と11月に相互訪問し、両市の市長対談等が行われました。また、昨年12月には、館山寺にて浜名湖関係者、西湖関係者に台湾の日月潭関係者を交えて、「湖サミット 2017浜名湖」を開催しました。

小山町と海寧市（1997年友好提携 20周年）

高校生相互訪問交流等、主に教育面での交流が行われてきました。2017年9月には、小山町長、海寧市長、駐上海日本領事館、県駐在事務所等の立会の下、教育、観光、文化、農業、公衆衛生等、多種多様な分野における協力を行う協定を提携しました。今後は協定に基づき、更なる友好・互恵関係を築いていきたいと考えています。



2017年11月、海寧で行われた記念式典

友情のたすきでつなぐ、静岡県と浙江省の絆

昨年12月30日に富士市、富士宮市で「2017富士山女子駅伝」が開催されました。今大会は、静岡県と浙江省友好提携35周年を記念し、浙江省の学生選手3名が招待され、「静岡県浙江省学生選抜」チームが結成され



【静岡県浙江省学生選抜チーム、皆でハイチーズ】

ました。浙江省からは浙江大学から2名、寧波大学から1名が招待され、その内、2名が本番に参加しました。浙江省の選手は12月27日に来日し、大会本番までの3日間を静岡県の選手と共に過ごしました。中国では駅伝は一般的ではなく、3名全員が駅伝未経験のため、静岡県の選手からたすきの受け渡しや、競技ルールについて教えてもらう等交流を育み、本番に臨みました。大会本番、浙江省の選手達は駅伝初挑戦ということもあり、硬い走りを見せる場面もありましたが、沿道に詰めかけた観客からの大声

援を受け、最後まで両県省の友好を象徴するたすきをつなぎ、アンカーがゴールテープを切ると、両県省の選手達が駆け寄り、お互いの健闘をたたえ合う姿が見られました。

静岡県中国研修生・印象記

昨年9月1日に来日し、約6ヶ月に渡って県内の受入機関で専門研修を受けた静岡県受入れの平成29年度静岡県海外技術研修員（中国研修生）4名はこのほど2月28日（蘇丹さんは12月29日帰国）、研修成果と友情を携えて、帰国の途に着きました。

- ①中国での所属機関 ②日本での研修先 ③研修内容
*静岡県の印象・研修の感想を一言

蘇 丹（そたん SU DAN）さん

- ① 浙江省人民病院
② 静岡県立静岡がんセンター
③ 消化器内科

* きめ細やかなサービスと仕事が印象に残っています。もっと長い期間研修したかったです。

権 金亮（けんきんりょう QUAN JINLIANG）さん

- ① 中国商務部国際貿易経済合作研究院
② (一財)静岡経済研究所、静岡県立大学グローバル地域センター
③ 統計を利用した静岡県経済

* 静岡県の「ものづくり」がとても印象的でした。

孫 維（そんい SUN WEI）さん

- ① 浙江省衛生和計画出生委員会
② 静岡県健康福祉部
③ 健康、福祉行政

* 日本の医療、福祉制度は非常に完成度が高く、素晴らしいと感じました。

王 倩（おうせん WANG QIAN）さん

- ① 桐廬県培智学校
② 静岡県総合教育センター
③ 日本の特殊教育

* 先生達が非常にまじめで、熱心で、学ぶことが多い研修となりました。



【左から王さん、蘇さん、孫さん、権さん】

シェアビジネスが進化中、電動自転車も

編集：静岡県・浙江省経済交流促進機構浙江省委員会事務局

2018年1月12日、電動補助付き自転車をシェアすることができる新たなシェア自転車ステーションが杭州市浜江区に設置され、新形態のシェア自転車の幕開けとなりました。新たなサービスステーションには自転車約1,000台と自転車用補助バッテリー約3,000個が用意され、現在、浜江区を中心に、51か所のサービスステーションが設置されています。

補助バッテリーが必要ない時は、一般の自転車と同じ様に使用でき、長距離移動もしくは体力を使いたくない時は補助バッテリーを借りて、自転車のかごの下に差し込むことで、電動補助付き自転車として利用することができます。

特に注目すべきは、今後3カ月間、バッテリー貸出料が無料となっていることです。現在、既にシェア自転車利用登録をしていれば、この期間バッテリーを無料で利用することができます。3ヶ月後に、試験の結果を考慮して正式な価格が決定されます。



【補助バッテリー付き連絡自転車ステーション】

この新たなシェア自転車は、最もクリーンなエネルギーソーラーバッテリーを使用した「シェア自転車+新エネルギー」形態の新たなシェア自転車です。この電動補助付きシェア自転車を始めとして、今後更に多くの新エネルギー開発商品が杭州でお目見えすることが期待されます。



【かごの下にバッテリーを差し込めば、電動補助付き自転車に】

シェア自転車は既に杭州市の代名詞となっています。今回導入される電動補助機付きシェア自転車によって、渋滞が深刻化する杭州市内の交通状況の改善、更に、排気ガスの削減が期待できます。

ここ数年、杭州市には高水準のシェア文化が根付いており、電動補助付きシェア自転車は杭州市民を更に便利に、幸せにできると市民は期待を寄せています。

浙江文化紀行

中国の伝統手工芸 —— 湖 筆

古来より、墨、紙、硯と共に「文房四宝」に数えられる、中国悠久の歴史を語る上で欠かせない書道具のひとつが筆です。筆の世界において、「湖筆」は中国国内で高い知名度を誇る浙江省の特産品です。「先尖り、華麗、円錐形、丈夫」という4つの特徴を持ち、宋代の文人蘇東坡も好んでこの筆を使ったと言われています。浙江省湖州市の南部に位置する嘉善鎮は「湖筆の郷」、「筆都」等の名称で呼ばれ、全国生産量トップを誇っています。



【善璉湖筆廠の作業風景】

宣州から湖州に移っていきました。

明時代には、文化の中心が北方に移動するのに伴い、湖筆も北京等の都市で売られるようになりました。湖筆はここでも高い評価を得て、その地位を不動のものとししました。2006年、湖筆の製作技法が国家級無形文化遺産に認定され、伝統技法の保護と共に、新たな技術と製品の開発が進んでいます。

湖筆には多くの種類があり、大きく分けて「軟毫」、「兼毫」、「硬毫」の3種類、更にその中に合わせて300もの種類があると言われています。その多くは、一般的に地元湖州で育った山羊の毛と余杭県文山の竹を原料として製作され、品質により等級分けされます。現在、嘉善鎮には善璉湖筆廠と含山湖筆廠の2大工房と100余の小工房があり、書道用の本格的なものから、土産用と幅広く作られています。

古くは秦の將軍・蒙恬が湖州の竹と羊毛を利用して筆を作らせたことが起源と言われる湖筆は、元時代にその名を全国的に知られるようになります。唐、宋時代、筆製作の中心は宣州、徽州（現在の安徽省宣城、黄山市）であり、宣州で生産される筆は「宣筆」と呼ばれ、高く評価されていました。

元時代になると、宣州は戦乱に巻き込まれ、優秀な筆職人は戦乱を避けて、浙江省湖州に移り住み、筆の製作を再開しました。その結果、筆製作技術が急速に向上し、「筆都」の地位は



【湖筆博物館入口に展示される巨大湖筆】



中国の老舗餐館



❀ 天津 狗不理包子 ❀

住所：天津市和平区山東路77号（狗不理山東路総店）

<老字号・狗不理包子の起源>

天津と言えば誰もがすぐに思い出す全国的に有名な食べ物は、『狗不理包子』の中華饅頭です。1858年、清朝の時代に高貴友という人が創業した、蒸し饅頭専門店「徳聚号」が、その前身です。

高貴友は14歳の時、天津のある中国点心の食堂の小僧になり、蒸し饅頭の作り方を学びました。生まれつき手先が器用で勤勉な高貴友は、そこで熱心に研鑽を積みました。高貴友の作る肉饅頭はたちまち有名になり、商売は大繁盛し、あまりの忙しさにお客さんに対応する暇もなく、

「狗子売包子、不理人」（狗子（高貴友の幼名）は肉まんじゅうを売る時、客を相手にしない）とからかわれました。これが『狗不理包子』というニックネームの由来です。高貴友はその後独立して「徳聚号」を創立しましたが、正式名称よりも『狗不理包子』というニックネームの方が親しまれました。

三代続いた高家の狗不理包子は、孫の代で休業しましたが、中華人民共和国成立後、1956年に天津市が買い取り、国有となりました。天津で総督を務めていた袁世凱が上京した際、西太后に狗不理包子を献上して喜ばれたというエピソードが残っている他、1973年に毛沢東が天津のグルメの講話をした際に狗不理包子を取り上げたため、部下がわざわざ天津まで買いに行ったという逸話もあります。

<狗不理包子の特徴>

元祖高貴友の肉饅頭は、食感がまろやかで、おいしくて食べ飽きず、菊の花のように形が整っており、色、香、味が揃っているのが特徴です。作り方は、豚肉に適量の水を加え、ゴマ油、特性の醤油、刻み生姜と刻みネギ、調味料で具を作り、小麦粉を水で練って大きさ、厚さの均等な皮を作り、具を包む時も、指でていねいにつまみ、白菊のように均等で美しい皺をたくさんつけます。



中身もジューシー



蒸したてほやほやの肉まんじゅう



ヒューマンウォッチング

中国語に魅せられて 栗原 進さん



55歳で北京に留学

栗原進さんは、大阪に単身赴任していた時、アフターファイブに中国語講座に参加したことがきっかけで、中国に関心を持ち始めました。そこから見事に中国語にはまってしまいました。その後、清水区の自宅に戻ってからも、近くの公民館で開かれていた中国語教室で中国語の勉強を続け、その時の先生のおついでで、一念発起、思い切って、55歳で北京師範大学に2年間留学しました。ここからが本格的な中国に関わる人生の始まりです。

草の根活動を続ける

留学から帰国した後は、日中友好活動に熱心に取り組みました。清水日中友好協会の理事も務め、清水で初の春節祝賀会を企画・主催し、日本人と中国人共に餃子パーティー形式で春節祝賀会を盛り上げました。この会は、今年なんと14年目を迎え、規模も年々大きくなっています。又、中国の現代文化を日本に伝えるため、清水区で中国映画を上映する会を主催し、特に大変印象に残っているのは「北京バイオリン」で、映画を通じて人々の中国に対する理解を深めています。

北京の学校で日本語教師を

次の転機は、2004年から知り合いの紹介で、北京求实職業学校の日本語教師を2年間務めたことです。この時は、学校の中で日本人は一人だったため、今でも連絡を取り合っている生徒さんがいるほど、中国の生徒とかなり密接に付き合い、中国の生活を存分に味わいました。

中国語サロンを主宰

現在、毎月第1、第3水曜日の10:00~12:00、JR静岡駅南口近くにある水の森ビルのNPO活動センターで、「中国語サロン」を開いています。中国語を勉強している愛好者は多いのですが、中国語を発揮する場がないのが現状であり、中国語を話すプラットフォームを設け、言語環境を人為的に造りだそうというのが目的で、日々尽力されています。

若い人を育てたい

2008年には、難関の通訳案内士試験をめたくパスし、依頼があれば、時々中国人観光客にガイドの仕事もしています。訪日外国人は年間約3,000万人近くになり、7割以上が中国語圏からであり、また中国人の日本旅行に対するニーズも爆買いから体験型にシフトしつつあり（「モノ」から「コト」へ）、今後はより多くの中国観光客に静岡に足を運んでもらえるよう、例えばお茶摘み体験や、清水港で揚げた冷凍マグロの加工等の見学を企画し、日本人と同じような日常生活を体験してもらうために、やる気があって実際に動ける若い中国語人材を育てていきたいと、抱負を語ってくれました。



【春節聯歓会にて 前列左から3番目、栗原さん】

発行所：静岡県日中友好協議会
発行人：栗原 績

静岡市葵区追手町44-1（静岡県産業経済会館1F）
TEL (054) 255-8111